

平成 30 年 1 月 26 日
地 震 火 山 部

火山噴火予知連絡会拡大幹事会

～草津白根山の火山活動に関する見解について～

本日、火山噴火予知連絡会拡大幹事会を開催し、草津白根山の火山活動について見解を取りまとめましたので、お知らせします。

本日（1月26日）、火山噴火予知連絡会（会長：石原和弘京都大学名誉教授）拡大幹事会を開催し、草津白根山の火山活動について検討を行い、草津白根山の本白根山では、当面は1月23日と同程度の噴火が発生する可能性があるとの見解を取りまとめました。

このことについて、別添のとおりお知らせします。

問合せ先：地震火山部 火山課 担当 小久保

電話 03-3212-8341（内線 4538） FAX 03-3217-3615

平成 30 年 1 月 26 日

草津白根山の火山活動に関する火山噴火予知連絡会拡大幹事会見解

草津白根山の本白根山では、1月23日10時02分頃に、噴火が発生しました。その後も火山活動が高まった状態となっており、当面は同程度の噴火が発生する可能性があります。

草津白根山の本白根山で、1月23日10時02分頃に噴火が発生しました。噴火した場所は、鏡池北火砕丘の火口北側（湯釜の南約1.6km）を通り東西方向約500mの範囲に分布する新たな複数の火口と推定され、大きな噴石が1kmを超えて飛散しました。

振幅の大きな火山性微動が、09時59分から約8分間観測されました。傾斜計では10時00分頃から約2分間で本白根山方向が隆起し直後に数分間沈降するような変化が観測されました。主な噴出物は傾斜計で沈降が観測された時間帯に放出されたと考えられます。

噴出した火山灰の大部分は、既存の山体の構成物とみられます。一方、火山灰の付着成分の分析から、高温の火山ガスの関与も認められます。

噴火時の微動の後に、火山性地震が多数発生し、翌日までには減少していますが、地震活動は少ないながら続いています。また、わずかな傾斜変動を伴う振幅の小さな火山性微動は、翌日以降も発生しています。

GNSSによる地殻変動観測ではマグマの動きを示す特段の変化は観測されていません。

草津白根山の本白根山では、当面は1月23日と同程度の噴火が発生する可能性があります。

噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るため注意してください。

草津白根山の本白根山の今回噴火が発生した場所付近では、これまで熱活動などの火山活動は認められませんでした。今後の本白根山の活動を監視するために、観測を強化する必要があります。